企業名：　川崎重工業

レポート名：　Kawasaki Report 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

川崎重工業の目標とする柱は、“安心安全リモート社会”、“近未来モビリティ”、“エネルギー・環境ソリューション”の３つである。この３つの柱を主軸に、安定した品質を保ち、コストを競争力の武器とした航空機・車両事業（陸・空輸送システム)、量産事業における経営資源の融通コア・コンポーネント事業のシナジー（モーションコントロール＆モータービークル)、水素事業を中心としたエネルギー・船用のエンジニアリング事業（エネルギー＆マリンエンジニアリング）の３つのグループの連携により、より効果的な技術革新を目指している。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

川崎重工業は、過半数の拠点が国外にあり、それに応じて売上高の 50%以上が国外拠点によるものである。よって、国際競争力が非常に高い。国外拠点により、人権費を抑えることによるコスト削減を可能にし、量産を可能としている。そして、現在まで行われてきた水素サプライチェーンの研究開発が将来のマリンエンジニアリングを可能なものする可能性を秘めている。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

川崎重工業の持続性を保証するものとして、水素エネルギーへの転換があげられる。川崎重工業は、現在に至るまで 10 年間水素サプライチェーンの構築を図っており、2030 年までの具体的な見通しが立てられている。SDG s の環境的な持続性を十分に満たすことが保証されているだけでなく、低価格であることにより企業自体の持続性も担保されていることがわかる。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

川崎重工業は、今後の人事制度改革の中に、役員報酬制度に“ペイ・フォー・ミッション”の考え方を重視し、実力次第で重要職務/ポジションに就くことが可能である。そのため、自分の能力がそのまま給料や実績に現れる社風は、自分が勤務するうえでのモチベーションにつながるだけでなく、経験値をたくさん積むことができ、更なる利益を生むことができると考える。

5.　報告書にはどのような改善余地があるか

川崎重工業は国外拠点が過半数を占め、国内のみならず、世界的に見ても非常に競争力の高い企業であることが読み取れた。しかし、今後の更なる国外へ展開の具体的な政策などがあまり読み取ることができなかったため、2030 年までの目標にグローバル化というのは大きな主軸ではないのではないかという印象を受けたため、具体的な国名を取り上げ、国家間での動きも着目することで、強みである国際性がより強調されるのではないかと考える。